

地震防災対策 2

トリアージシステムの確立

トリアージシステムの確立

① トリアージシステム

より多くの患者さんを受け入れ、多くの人々の命を救う為には、トリアージが必要になります。現状を把握し、より早急に治療ができるようにシステムの確立が大切です。多数の震災患者の来院に備え、患者を受け入れるスペースを確保する必要があります。

①－1 入院患者の数や一時帰宅している患者の人数を把握します。

①－2 患者の安全を確認し、災害対策本部（準備要員）に報告します。

①－3 軽症・病状安定の患者は、移動や一時帰宅を依頼します。

（主治医が不在で判断できない場合も考えられますので、あらかじめ移動・一時帰宅可能患者リストを作成しておく。）

①－4 一時帰宅を依頼する場合は、患者の自宅が被災、又はライフラインが停止していることもありますので、必ず患者の家族と連絡を取り、家族の迎えが可能な場合のみに限定します。

（家族の連絡者名簿を作成しておきましょう）

① トリアージシステム

- ①－5 一時帰宅を患者へ依頼する場合は、交通事情等により、数日間には通院できないことに備え、医薬品の処方や提供を正確に行ってください。他の医療機関にかかる場合に備え、患者情報（病名、症状、投薬内容など）を必ず提供します。
- ①－6 一時帰宅を患者に依頼した場合は、病状が急変した場合に備えて、災害患者とは別に再来院優先窓口を必ず設置し、帰宅する患者・家族に説明します。
- ①－7 災害後は、自宅や家族の様子が気になりになり、帰宅を希望する患者も少ないと思われる。患者の病状や災害後の状況に合わせて、患者が一時帰宅を希望した場合は対応して下さい。患者の希望で一時帰宅する場合も、⑤⑥を行います。
- ①－8 会議室、食堂等の空きスペースに簡易ベッド等を入れ、通常の定員を超える収容能力を確保します。
- ①－9 新たに設置した仮設病室は、治療用機器を用意できるように準備しておきます。

② 病院内のゾーン区分と職員配置計画

地震災害の場合、外来患者数が予想できないだけでなく、病院内部も混乱が生じていることが考えられます。

同時に多数発生した負傷者を少しでも多数受け入れるために、被災地から救急隊員によって搬送されてくる患者、家族が連れてくる患者、自力で病院を訪れる患者など、どんな方法で来院した場合にも、全員にトリアージを実施します。

スムーズなトリアージと治療のためには、あらかじめ、病院内のゾーン区分と職員配置計画を立てます。

- ・ 混乱を防止するため、人の流れ（動線）は、できるだけ1方向にし、スムーズに流れるように配置します。
- ・ 入口（受付）と出口は別に設けます。
- ・ 事前に、短時間で増床可能ベッド数を病棟や部屋ごとに把握します。

②－1 受付ゾーン（病院内の平静を保つ為にも、入口はできるだけ1カ所にします）

- ・ 負傷者や付添い人で混乱するので関係のない人の入場を制限。
- ・ その場で、トリアージを行います。（病状により色分けをする）
- ・ 気候条件が良い場合は、屋外にテントを張って対応します。
- ・ トリアージの結果により、患者を移動します。
- ・ 家族や知人が消息を尋ねに来院することに備え、来院患者の氏名、入院か帰宅か、転送の場合は転送先病院名等を、受付脇などの目立つ場所に掲示します。